

呉で輝く 若者たち

YouTube

スマホやタブレット端末でQRコードを読み取ると動画を視聴いただけます。



vol.123

たけうち しんたろう

竹内 信太郎 さん

プロフィール

37歳。豊地区在住。岩国市出身。小学生の時に広島市へ。SHINTARO FARM 経営。前職の食肉関連の商社では、スペイン駐在を経験。有害鳥獣対策として、わな猟も行う。島の同世代との交流が息抜きになっている。

SHINTARO FARMのInstagram



都会の喧噪を離れた島の空気に、時折聞こえてくる鳥のさえずりや風の音。そんな大崎下島の段々畑からは、緑と集落が織りなす風景ある風景を見下ろすことができます。

ここは昔、竹内さんの祖父母が大切にしていたかんきつ畑でした。9年ほど前、その祖父が病気で入院したことをきっかけに、当時、商社で働いていた竹内さんがこの島に移住してきました。

「商社は仲介が主な仕事。商品を手で一から作り上げる農家には憧れがあったんです」と、就農を志した当時を振り返ります。

はじめは、農家の大変さを知る祖母に「会社員を続けてほしい」と言われていましたが、それでもかんきつ農家を目指すことを決意しました。

「自由な働き方ができる農業に挑戦したかった」と竹内さんは話します。

移住後ほどなく、農業組合の研修を受け、かんきつ栽培の基礎を学んだという竹内さん。地域の先輩農家にも実践的なアドバイスをもらいながら、着実にかんきつ農家としての知識や技術を積んできています。

現在、就農して約8年。特に大変だったのは、ずっと手付かずで草木がうっそうとしていた畑の開拓でした。自身の理想の畑づくりのため、竹内さんは除草剤を使わず、草刈り機などを使った雑草管理を行ってきました。また、樹間を広く取り動線を確保することで、作業効率アップも実現。そのゆとりのおかげで、かんきつの樹が栄養をたっぷり吸収できるそうです。

「量」よりも「質」を重視し、日々試行錯誤しています。その分、うちのかんきつを食べて「すごくおいしい」と声をかけてもらった時のうれしさは格別ですね」と、笑顔で教えてくれました。

今では、20を超える品種を育てるかんきつ農家となった竹内さん。高齢化の進む島の農家の中では、貴重な存在です。

「呉の柑橘を未来に伝えていく」とそんな思いを胸に、今日も畑と向き合います。



▲段々畑から眺める風景

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています

■再生紙を使用しています
■QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です

10言語対応「市政だより くれ」デジタルブックで配信中！



- ブラウザでもアプリでも、スマホやタブレットで読める
- 文字サイズを調整できる
- 動画や写真も楽しめる
- 10言語で読める・聞ける（音声読み上げ対応※）

無料 FREE APP



【対応言語】

日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）
韓国語、タイ語、ポルトガル語（ブラジル）
スペイン語、インドネシア語、ベトナム語
※ベトナム語は音声読み上げに対応していません。



・ブラウザ版は音声読み上げには対応していません。音声読み上げには、無料アプリ（カタボケノ）のインストールが必要です。

編集・発行
呉市役所 秘書広報課

〒737-8501 広島県呉市中央4丁目1番6号 代表 ☎25-3100 秘書広報課 ☎25-3236

市政だより 令和8年5月号